

## 山口県公立大学法人評価委員会（第20回）の審議要旨

- 1 日 時 平成25年7月17日（水） 10:00～11:40
- 2 場 所 山口県庁共用第5会議室
- 3 出席委員 牛見委員長、岸本委員、樋口委員、二木委員、松浦委員（50音順）
- 4 審議事項
  - (1) 平成24年度における法人の業務の実績について
  - (2) 平成24年度に係る法人の財務諸表等について
- 5 審議要旨 [ ● 委員    ◇ 委員長    □ 法人    △事務局 ]

### 【 評価方法・全体評価 】

- 非常に活動の内容が充実している割に、評点が3点（概ね順調）とされているのは目標が高い故であろうが、大学自ら高い目標を掲げてチャレンジするからには、「概ね順調」から脱出して、次のステップの評価が与えられるよう、さらに高いところを目指して内容の充実を図っていただきたい。
- 数値化できない目標項目の評価について、4点、5点とする場合の基準は、どう設定されているのか。
  - 例えば「方針を策定する」という目標に対し、方針を策定し、実際に具体的な運用にまで至ったというような場合は4点、他大学の模範となるような優れた機能を発揮していると認められるときは5点としている。

### 【 教育 】

- 現在、海外で、領土問題や歴史認識でいろいろ言われている状況にあるので、グローバル人材の育成ということで、学生さんが海外に出掛けられた際には、日本の立場を主張してきていただきたい。そうしたことができるような事前教育を是非お願いしたい。
- 本学が目指しているのはインターローカル人材の育成であり、言わば、インターナショナルな部分とローカルの部分を兼ね備え、かつ、地域マインドを持った人材の育成である。そのため、相手国の勉強だけでなく、自国・地域についての勉強もしている。今後ともそうした教育を推進していきたい。
- 学生が到達目標や学習計画を自己管理する「マイ言語管理システム」のような仕組みを、外国語だけでなく、社会福祉士等、国家試験を受けるようなものにも広げていただきたい。

- 学生の習熟度を測るカルテ的なものは、他の学部でも作り始めているが、国家試験対策については別の要素もあるため、広げていくまでには至っていない。
- グローバル人材育成推進事業の中の「海外スタディーツアープログラム」について、参加者の選択方法、実施回数や行き先など具体的な内容を教えて欲しい。
- 国の補助事業であるため、参加できるのは国際文化学部の学生に限られるが、グローバル人材の育成は全学的な方針であることから、他学部の学生も参加できるようにして行きたいとは考えている。

24年度は13プログラムを企画し、行き先は韓国、中国、シンガポール、フィンランド、ハワイ、タイ、ドイツなどである。

内容は、「多文化国家を学ぶ」、「異文化の発見」、「高齢者を対象とした調査」、「服飾デザイン」、「難民キャンプのスタディーツアー」、「古建築再生におけるアートマネージメント」などとなっている。
- 県立大学は4つの教育理念を明確にし、はっきりしたビジョンも持っているのに、学位プログラムの整備の評点が「2」で、3つの方針が策定に至らなかったのは不思議な感じがする。何か特別な事情があったのか。また、今後のスケジュールを教えて欲しい。
- 各学部が目指す学習成果と教養課程との間の調整に時間を要したこと、科目設定・カリキュラム編成に応じた教員採用計画の見直しも絡んでくる等で慎重な検討が必要であったことが挙げられる。加えて、「グローバル人材育成推進事業」や現在国に申請中の「地（知）の拠点整備事業」に関連する教育科目などについても考慮に入れる必要があり、スケジュールを遅らせざるを得なかった部分もある。

今後のスケジュールとしては、25年度に方針的なものを策定し、27年度からの施行を予定している。
- 大学は学部ごとの自治みたいなものが強い。学位プログラムを学部単位ではなく大学全体のものを作っていこうとすると、学部の思いや作ってきたもの、歴史等があり、合意形成に時間がかかることは理解できる。
- 看護学科の一般選抜について、昨年度に比べて大幅に志願者が増えているが、何か特別な措置を講じたのか。
- 昨年は、近隣の島根県で看護学科が新設されたことも影響し、一時的な減少につながったと分析しており、今年はこれが元に戻ったものと受け止めている。
- 社会福祉士の国家試験の合格率が平成20年度の84.9%から大きく落ちているが、試験制度の変更や国が合格率を減らした等、特別な要因があるのか。
- 社会福祉士については、質の低下を防ぐという観点からだろうが、非常に難しい試験になっているのではないかと推測される。

- 日本全体では、外国からの留学生数が減り、非漢字圏からの留学生が増える傾向がある中で、相変わらず中国からの留学生を含め、多くの留学生を確保しているが、特別な支援を実施しているのか。
- 留学生については、学術交流協定を結んでいる大学からの交換留学生を含め、毎年30数名の受け入れをしている。交換留学生については、協定に基づき生活上の支援などしているが、その他に特別なことはしていない。

#### 【 学生支援 】

- 就職率が素晴らしい。実質就職率も9割を超えており、「4」という自己評価になっているものの、十分「5」に値する素晴らしい成果だと思う。
- 就職後の離職等の状況把握はどのようにしているのか。
- 定型的な状況把握や離職対策などの取組は行ってはいないが、学部によっては、同窓会等の場を通じて情報のやりとりをしており、ある程度掴んでいる場合もある。また、キャリアサポートセンターでは、卒業生からの相談も受け付けており、話が来ればフォローはしている。
- 環境に馴染めなくて離職してしまった場合など、就職後のサポートを大学でしてもらくと、学生も心強くなると思うし、大学の「ウリ」にもなると思う。

#### 【 研究 】

- 地域共生センターを中心に県政課題の解決に向けた検討が行われたというのは非常に素晴らしい取組だと思うので、ぜひ大きく広げていただきたい。
- 県立の大学として、地域共生センターの取組については、頑張っていきたいと思っている。

#### 【 まとめ 】

- ◇ 各委員から多くの御意見をいただいたところで、審議事項については次回への継続審議とする。
- △ 今後、事務局において委員の意見を踏まえて評価書原案を作成し、次回の評価委員会で審議をお願いしたいと考えているので、各委員の御協力をお願いします。

以 上